

びわ湖トラスト親子環境学習講座

～megumiに乗船A～ 報告書



認定NPO法人 びわ湖トラスト

実施日 : 2021年7月25日(日)
 後援 : 大津市教育委員会
 協賛 : 公益財団法人 平和堂財団
 参加者 : 10組 20名(大人:10名・子供:10名)
 スタッフ : 10名(講師・ボランティアスタッフ含む)

行程

9:20 受付開始
 9:30 乗船開始
 9:45 大津港 出航(白髭神社・沖の白石経由)
 オリエンテーション
 プランクトン講義
 ランチ
 12:30 沖島 寄港
 プランクトン採取見学・体験
 14:00 沖島 出航
 顕微鏡でプランクトン観察
 16:00 大津港着 解散、帰路へ



今年度も新型コロナウイルス感染症対策につき、定員をいつもの半分で開催。日曜日に実施したこともあったのか、今回は20名の定員に対し、280名以上の応募があり、今まで実施した中でもかなり高い競争率だった。

参加証と健康チェックシートを受付で提出してから検温。全員問題なく乗船することができた。



参加者はマスク着用の上、各座席にはアクリル板と除菌グッズを設置。親子環境学習上の注意事項やトラストの簡単な活動の紹介、船の構造などを紹介し、その後すぐに一瀬先生によるプランクトン講義が始まった。



一瀬先生は、琵琶湖環境科学センターで調査研究を長年行っておられた方で、定年退職後も琵琶湖博物館で指導したり、環境省や大学での研修や講義をするだけでなく、プランクトン観察会などを通じて後継者育成にも力を入れておられる。

今回は小学生にも分かり易く、プランクトンとは何か？ということから始まり、びわ湖のプランクトンを出航前に採取したものをういてどんなプランクトンを見ることができるのか、モニターで顕微鏡の様子を見せてくださった。

南湖でどんなプランクトンを確認できたのかは参加者だけの秘密だが、琵琶湖の全循環や地球温暖化の影響もあるのか、ここ数年見つかるプランクトンの種類には変化もあった。

講義の途中、少し中断して、びわ湖大橋や白髭神社、沖の白石を船から見る。湖から見る白髭神社は、普段湖岸からみるものとは少し趣が違って見え、鳥居からまっすぐ神社が見えると、神々しく感じた。



講義を終え、船内で各々昼食をいただき、沖島に上陸。

まずは湖岸に出て沖島のプランクトン採水する40リットルの水をプランクトンネットに通して40ミリリットルへと1000倍の濃縮を行った。

その後は自由行動。小学校の前から漁業会館を目指し、各自散策を楽しんだ。



散策後は船に戻り大津港を目指す。船の中ではプランクトン観察を再開。今度は顕微鏡を使って自らの目でプランクトンを探す。北湖である沖縄で採取したプランクトンと、南湖の大津港で採取したプランクトンを自分の目で見る事ができた。

プランクトンの名前が分からないときは先生に聞く。今回は高校生3年生のプランクトン研究を行っている子もボランティアとして同行してくれたので、参加者の疑問に答えてくれる先生が増えて、皆どんどんプランクトンを見つける事ができた。

見つけたプランクトンを動物・植物に分けてどんどんホワイトボードに貼っていく。今回も多くのプランクトンを発見する事ができた。

天気も良く、暑い一日だったが、幸いにも熱中症になることもなく、皆充実した一日を過ごす事ができたようだ。

先生の宿題である、プランクトンのスケッチやを行ってじっくりと観察すること。親や周りを困らせるくらい普段からなぜ？という疑問を持ち続けること。

帰ってからも、この話を思い出して参加者の身となればいいなと思った。

